

大学史ノート

尾佐竹猛書誌拾遺 2 参考文献目録（1）

飯 澤 文 夫 編

「尾佐竹猛書誌拾遺」は、田熊渭津子編『尾佐竹猛（人物書誌大系）』（日外アソシエーツ、1983）を補うものである。

「参考文献目録（1）」は、尾佐竹猛に関する研究文献、尾佐竹の著作に依拠した論考や作品、書評・解説、尾佐竹の動向を報じた新聞・雑誌記事など266点を登載した。

尾佐竹は、歴史・風俗資料の食欲なまでの蒐集家として夙に知られる。また、判事という堅い職業の顔をもちながら、心許した郷土人との宴席では下世話な話に興じるなどユーモラスな一面も見せていた。そうした様子は、反町茂雄の『一古書肆の思い出』や『紙魚の昔がたり』、加越能郷友会会報「加越能」などに散見される。いずれも尾佐竹を論じた単独の文献ではないため、本稿ではその多くを外したが、むしろそうしたもののの中に、尾佐竹の人間性を知る手がかりが潜んでいるように思う。それらの採録については、他日を期したい。

凡例

配列と記述は、前稿「尾佐竹猛書誌拾遺 1 著作目録 (1)」(「大学史紀要」20、2015. 3) と同様である。

文献番号は、著作目録との識別のため、冒頭に「R」を冠した。

再録・転載は、初発表年月日の下に(再)として記述した。ただし、一部、後に論集に再編成されたものなど書誌的変遷を明示することが望ましいと判断したものについては、それぞれの発表年月日に登載し、→、←で関係を表した。

明治3年(1870年)

R18700100 尾佐竹丈二：『先祖由緒并一類附帳 明治三午正月』

(注) 父親が藩庁に提出した原本。禄高、出自、履歴、先祖の系譜、4親等までを記載。金沢市立玉川図書館所蔵

明治33年(1900年)

R19001115 無署名：判検事試験「明治法学」14 p75 (注) 筆記試験及第者一覧に尾佐竹の氏名記載

明治34年(1901年)

R19010115 無署名：判事検事登用試験及第者「明治法学」16 p85
(注) 尾佐竹の氏名記載

明治35年(1902年)

R19020720 無署名：[任判事、福井地方]「明治法学」40 p58 (注)
尾佐竹の氏名記載

明治36年(1903年)

R19030108 無署名：録事 福井支部例会「明治法学」51 p95 (注)
尾佐竹を校友会福井支部の幹事に選出したこと

明治37年(1904年)

R19041108 無署名：福井支部幹事「明治学報」78 p88 (注) 監事に

指名したこと

大正6年(1917年)

R19170101 安東危西〔柳田国男〕：方言「郷土研究」4(10) p58 (注)
尾佐竹が関心をもった伊豆新島の方言「デヰ(出居)」について (再) 2000. 2. 25 「尾佐竹猛氏」『柳田国男全集』
25 筑摩書房 p201 など

R19170831 柳田国男：一目小僧の話(18)「東京日日新聞」p3 (注)
尾佐竹が伊豆諸島で聞いた神話のこと (再) 1988. 11.
25 『柳田国男全集』7 筑摩書房 p420-422 など

大正10年(1921年)

R19211021 無署名：紫鉛筆(50)「読売新聞」p9 (注)「三くだり半」
の故事来歴をめぐる尾佐竹の説について

大正11年(1922年)

R19220623 無署名：東京の判事様 佐渡ヶ島では大名格 宿屋の表に
『……御宿』第二の山憲事件の検証で面喰った尾佐竹さん
「東京日日新聞」p9 (注) 坑夫服を着て佐渡金山入口に立
つ写真を掲載

大正14年(1925年)

R19251120 無署名：賭博と掏摸の研究「東京日日新聞」p8 欄外
(再) 1933. 4. 15 『賭博と掏摸の研究』前付p7

R19251123 無署名：賭博と掏摸の研究(新刊紹介)「報知新聞」p3
(再) 1933. 4. 15 『賭博と掏摸の研究』前付p6

R19251125 無署名：賭博と掏摸の研究(出版界)「東京朝日新聞」p8
欄外 (再) 1933. 4. 15 『賭博と掏摸の研究』前付p7

R19251205 無署名：賭博と掏摸の研究(新刊紹介)「大阪朝日新聞」
p10欄外 (再) 1933. 4. 15 『賭博と掏摸の研究』前付p6-7

R19251220 無署名：拾八歳のときの河野広中「読売新聞」p4 (注)
『維新前後に於ける立憲思想』掲載の挿画を紹介

R19251223 無署名：維新前後に於ける立憲思想（尾佐竹猛著）（新刊紹介）「読売新聞」 p4

R19251224 無署名：チョンまげで洋服を着た徳川慶喜公 尾佐竹猛著『維新前後に於ける立憲思想』の口絵原板 「読売新聞」 p4

大正15年・昭和元年（1926年）

R19260000 中村、松野ほか：昨年の史学考古学地理学会 史学界 国史「史林」11(2) p84-118 （注）尾佐竹『維新前夜に於ける立憲思想』と『賭博と掏摸の研究』に言及 （再）1933. 4. 15 尾佐竹猛『賭博と掏摸の研究』 総業社書店 前付 p7-8 抄出

R19260101 中山太郎：賭博と掏摸の研究 「帝国大学新聞」148 p4（再）1933. 4. 15 尾佐竹猛『賭博と掏摸の研究』 総業社書店 前付 p3-4

R19260124 藤井甚太郎：憲政実現の機微 尾佐竹氏の研究発表（新著週評）「東京朝日新聞」 p6 （注）『維新前後に於ける立憲思想』書評

R19260420 無署名：賭博と掏摸の研究（新刊紹介）「法律新聞」2532 p20 （再）1933. 4. 15 『賭博と掏摸の研究』 前付 p7-8

昭和2年（1927）

R19270901 柳田国男：不幸なる芸術（4）「文藝春秋」5(9) p33-34（注）尾佐竹の犯罪に係る見解について （再）1999. 4. 25 『柳田國男全集』19 筑摩書房 p610-611 など

昭和3年（1928）

R19280404 無署名：学部展望 明大の巻（2）法学部全盛の夢もむなく こゝにも見る時世の動き 商学部は若手揃い 「読売新聞」 p2 （注）明大きっての変わり種として写真入りで紹介

R19280421 無署名：記念祭の人気をあつめて七室いっばいの出品 教育

発達史を図示した明治教育文化展覧会 「駿台新報」 p8

(注) 明治大学47周年記念。展覧会委員、出品者

R19280717 無署名：道楽半分からたうとう博士 おなじみの尾佐竹さん
例の維新研究で 「東京朝日新聞」 p7 (注) 東京帝国大学
から法学博士の学位を受ける

R19280811 無署名：[吉野作造らによる博士号取得祝賀会企画] 「読売
新聞」 p4

R19281015 無署名：校友尾佐竹猛君法学博士の学位を授与せらる 「明
治大学学報」 142・143 p10

昭和4年(1929年)

R19290215 無署名：尾佐竹副会長学位授与祝賀兼明大石川県人会総会
(雑報) 「明治大学学報」 147 p27-28 (注) 出席者・杉村
虎一ら

R19290325 青淵先生[渋澤栄一]：仏蘭西時代の思ひ出(巻頭言) 「龍
門雑誌」 486 p1-8 (注) 昭和3年12月3日、東京銀行俱
楽部における尾佐竹講演「慶應三年の遣仏使節に就て」後の
講話 (再) 尾佐竹猛著『幕末遣外使節物語 夷狄の国へ』
(講談社学術文庫 907) 講談社 1989.12.10 p270-278

R19290829 無署名：雑記帖 「読売新聞」 p4 (注) 大津事件と尾佐竹
の説について

昭和5年(1930年)

R19300111 無署名：ゴシップ 「読売新聞」 p4 (注) 生殖器崇拜に関
する尾佐竹の見解について

R19300124 無署名：明治初年撮影の二重橋のおもかげ 一敬神家の手か
ら宮内省へ納められた珍写真 「東京朝日新聞」 p3 (注)
同写真に尾佐竹が感心したこと

R19300704 無署名：読書界風景 「読売新聞」 p4 (注) 花園歌子『芸
者通』出版記念会における尾佐竹

昭和6年(1931年)

- R19310620 無署名：雄弁部長は尾佐竹氏に決定 夏期遊説プラン発表する「駿台新報」290 p3 (注) 明大雄弁部長

昭和7年(1932年)

- R19320312 無署名：文科長の声高い尾佐竹博士は明大の産んだ司法畑の偉材「駿台新報」307 p2 (再) 1979. 3. 20 『資料文科専門部の創設』(明治大学文学部五十年史資料叢書 II) 明治大学文学部 p24-26
- R19320316 無署名：現実に即して異色ある文芸科 明大文科の編成決る「東京朝日新聞」p7 (注) 史学科講師に尾佐竹
- R19320521 無署名：尾佐竹猛 藤沢衛彦両氏祝賀会「駿台新報」311 p2 (再) 文科部長就任の件。1979. 3. 20 『資料文科専門部の創設』(明治大学文学部五十年史資料叢書 II) 明治大学文学部 p34
- R19320601 柳田国男：童話研究二篇 犬子嘶「旅と伝説」5(6) 54 p2-5 (注) 尾佐竹の桃太郎の立志談に係る見解について (再) 1988. 10. 25 犬子嘶『柳田國男全集』6 筑摩書房 p264-268 など
- R19320917 無署名：尾佐竹猛博士が図書委員会に加わる 文科を代表して「駿台新報」322 p2 (再) 1979. 3. 20 『資料文科専門部の創設』(明治大学文学部五十年史資料叢書 II) 明治大学文学部 p37-38

昭和8年(1933年)

- R19330920 無署名：『海外史上の日本』 上代・中世・近世の覇業 沼田、中村、尾佐竹博士が語る 講演の夕 午後七時卅分「読売新聞」p10 (注) JOAK 放送予告
- R19331021 無署名：輝く憲政図書館 門が不出の資料三千余冊を加え代議士連にお目見得「読売新聞」p7 (注) 憲政史編纂委員

長としての尾佐竹

昭和9年(1934年)

- R19340226 無署名：トランクに秘めた藤公の珍写真 本社の日本外交展
覧会へ 公爵家から特に出品 「東京朝日新聞」 p11 (注)
尾佐竹らが立ち会って選定したことについて
- R19340301 大谷美隆：刑事博物館とその資料 「博物館研究」 7(3) p5-
7 (注) 目次タイトルは「刑事博物館とその蒐集品」。明治
大学刑事博物館（現明治大学博物館）創立に関し尾佐竹に言
及
- R19341124 三宅正太郎：『明治文化叢説』（読書頁）「東京朝日新聞」
p6
- R19341202 蛭原八郎：幕末明治新聞全集（図書欄）「読売新聞」 p4

昭和10年(1935年)

- R19350501 西原佐喜市：明治初年の部落問題 『部落問題の過去・現在
・未来』増補4版 部落問題研究所 p39-61 (注) 尾佐竹
の関係論考を参照
- R19350504 無署名：高等試験の憲法担当者銓衡やうやう成る 「東京朝
日新聞」 p2 (注) 司法科委員になったことについて
- R19351105 無署名：尾佐竹猛氏 塚田凡堂編著『先哲の遺訓と逸話現代
名流一人一得家庭の鑑』北日本社 p319

昭和11年(1936年)

- R19361025 中野重治：迷信・信仰・宗教（槍騎兵）「東京朝日新聞」
p7 (注) 尾佐竹の迷信観について

昭和12年(1937年)

- R19370101 無署名：尾佐竹猛 『現代日本人名辞典』（中央公論別冊 52-
1 附録）中央公論社 p39
- R19370413 無署名：醜い広告一掃 風景協会決議 「東京朝日新聞」
p10 (注) 同協会第3回総会に出席

- R19370608 無署名：憲法発布五十周年記念大日本憲政史いよいよ編纂に着手 「東京朝日新聞」 p2 （注）委員長に就任
- R19370617 無署名：鉄道沿線の汚い広告退治 近く風景協会一行が沿線調査 「東京朝日新聞」 p12 （注）役員会に出席
- R19370630 無署名：民政青年部政治講習会 「東京朝日新聞」 p2 （注）講師を務める

昭和13年（1938年）

- R19381219 無署名：尾佐竹猛氏著「明治政治史点描」（読書）「東京朝日新聞」 p4

昭和14年（1939年）

- R19391004 無署名：“裁判所構成法”五十年の祝典 ルドルフ氏起草の草案原本を発見 喜び溢れる司法部 「東京朝日新聞」 p11 （注）ドイツの法学者、ルドルフ・フォン・グナイスト、明治憲法に影響を及ぼした。尾佐竹のコメントを紹介
- R19391024 無署名：裁判所構成法五十年前その前後① 判決原本にも御紋章 偲ばれる司法官気質 「東京朝日新聞」 p11 （注）尾佐竹のコメントを紹介

昭和15年（1940年）

- R19400302 無署名：司法部の苦心結実 ル氏の遺影発見 “構成法”生みの親の消息判る 「東京朝日新聞」 p7 （注）ル氏はルドルフ・フォン・グナイスト。尾佐竹らの調査について
- R19400423 無署名：紀元二千六百年記念事業 日本文化史展覧会 「東京朝日新聞」 p2 （注）委員になる
- R19400504 無署名：畏し五時間半 高松宮兩殿下御熱心な御巡覧 本社文化史展の恐懼 「東京朝日新聞」 p7 （注）尾佐竹らが説明
- R19400520 無署名：畏し五時間余 秩父宮、同妃殿下御巡覧 文化史展・重なる栄光 「東京朝日新聞」 p7 （注）明治文化で尾佐

竹が説明

- R19400609 無署名：中村翁を偲ぶ 盛会の講演会 「東京朝日新聞」 夕刊 p2 (注) 講演
- R19400803 竹賢人：「改造」八月の雑誌評 (槍騎兵) 「東京朝日新聞」 p2 (注) 尾佐竹の歴史観に言及
- R19400901 無署名：構成法生みの親は— 伊藤公蔭の人とは別の人物 “ルドルフ” は二人実在 「朝日新聞」 p7 (注) 尾佐竹らの調査について
- R19401017 無署名：昭和維新に贈る胸像 けふ伊藤公の生誕百年祭 「朝日新聞」 夕刊 p2 (注) 尾佐竹らによる伝記編さんについて
- R19401117 無署名：議会開設五十年記念式典 天皇陛下行幸に御内定 天覧に供える憲政資料の数々 「読売新聞」 夕刊 p1 (注) 尾佐竹による選定について
- R19401129 無署名：晴れの式典を彩る憲法制定の秘話 世に出た博文公の貴重な書翰 「読売新聞」 p7 (注) 新出資料が尾佐竹を喜ばした
- R19401130 中山久四郎：鳳暦二千五百春 (学界余滴) 「朝日新聞」 p5 (注) 尾佐竹の紀元二千五百年に関する談話について

昭和16年 (1941年)

- R19410211 無署名：維新前に紀元の文字 露都留学生の書信から発見 「読売新聞」 p3 (注) 尾佐竹のコメントを紹介

昭和17年 (1942年)

- R19421211 無署名：前田大将追悼音楽会 「朝日新聞」 p3 (注) 講演
- R19421216 無署名：故前田大将の偉勲を偲ぶ 文化奉公会で “講演と音楽の会” 「朝日新聞」 夕刊 p3 (注) 講演
- R19421225a 無署名：内閣辞令 (二十四日) 「朝日新聞」 夕刊 p1 (注) 任検事

R19421225b 無署名：司法部の簡素化へ 老骨のお礼心 尾佐竹さん勇退
の弁 「読売新聞」 p3

昭和18年（1943年）

R19430111 無署名：最上徳内墓前祭 「朝日新聞」 p3 （注）参列

昭和19年（1944年）

R19440205 無署名：いまぞ一億白兵の秋 「読売新聞」 24093 夕刊
p2 （注）日露戦争当時の国民総奮起の実情をしのび語る尾
佐竹

R19440512 無署名：尾佐竹猛 『日本紳士録』第47版 交詢社 p83

昭和21年（1946年）

R19461002 無署名：尾佐竹猛氏（明治文化史研究家、法学博士）「朝日
新聞」夕刊 p2

R19461003 無署名：尾佐竹猛氏（評論家、法博）「読売新聞」 p2
（注）訃報。肖像写真入り

昭和26年（1951年）

R19510310 無署名：尾佐竹猛 『文化人名録』昭和26年版 日本著作権
協会 p556

R19510800 中島健蔵：尾佐竹猛著『露国皇太子大津遭難湖南事件』を読
む 「図書」 23 p19-20

昭和28年（1953年）

R19530930 松下芳男：オサタケタケキ 『大人名事典』1 平凡社 p
605

昭和30年（1955年）

R19550525 無署名：おさたけ・たけき 新村出編『広辞苑』 岩波書店
p287 （注）以後、各版によって出生地や著書などが異なっ
ている

昭和31年（1956年）

R19560910 岩井忠熊：尾佐竹猛 『日本歴史大辞典』3 河出書房 p

昭和34年（1959年）

- R19591220 瀬森利彰：「尾佐竹猛博士」しのぶ草 「能州史叢」2(3)
7 p8

昭和38年（1963年）

- R19630100 松本清張：相模国愛甲郡中津村 「婦人公論」8(2) 560 p
278-295 （注）尾佐竹『明治秘史疑獄難獄』所収「藤田組の
贗札事件」を参考 （再）1964. 1. 1 文藝春秋新社より同名
名单行本 ほか

昭和39年（1964年）

- R19640130 無署名：尾佐竹猛 『石川県史 現代編』3 石川県 p260-
261
- R19640303 永井憲一：鈴木安蔵教授の略歴および著作目録 有倉遼吉編
集代表『憲法調査会総批判（鈴木安蔵教授還暦祝賀論文集）』
日本評論社 p369-381 （注）前書き及び目録で尾佐竹著
『日本憲法制定史要』と『日本憲政史大綱』が鈴木安蔵との
共著である旨を記載。R19871110b 参照
- R19640529 白上謙一：日本人の凝り性について 「山梨大学学生新聞」
p? （注）尾佐竹『賭博と掏摸の研究』などについて （再）
1976. 9 白上謙一著『現代の青春におくる挑発的読書論』
昭和出版 p78-82、1980. 4. 30 白上謙一著『ほんの話—青
春に贈る挑発的読書論』（教養文庫1017）社会思想社 p78-
82

昭和41年（1966年）

- R19661114 無署名：『賭博と掏摸の研究』が復刊 「読売新聞」 p20
- R19661220 無署名：おさたけたけき 高柳光寿・竹内理三編『角川日本
史辞典』 角川書店 p144

昭和42年（1967年）

- R19671111 木村礎：尾佐竹猛論 『明治大学、人とその思想』 明治大学
新聞学会 p113-120 (再) 1997. 11. 25 『木村礎著作集』
11 少女たちの戦争・年譜 名著出版 p259-263
- R19671225 鈴木安蔵：『憲法学30年』 評論社 B5判 347p (注) 憲
法学研究で尾佐竹から受けた指導のことなど随所で回想

昭和43年 (1968年)

- R19680201 無署名：おさたけたけし 新世紀辞典編集部編 『学研新世
紀大辞典』 学習研究社 p247 →R19781005
- R19680615 室矢幹夫：高浜町開祖之碑と尾佐竹猛 (郷土シリーズ 1)
「たかはまー高浜小学校 PTA 会報」 4 p4
- R19681105 室矢幹夫：志賀瑣羅誌と志賀郷 (郷土シリーズ 2) 「たか
はまー高浜小学校 PTA 会報」 5 p6

昭和44年 (1969年)

- R19691101 加太こうじ：解説 尾佐竹猛著『賭博と掏摸の研究』 新泉
社 p317-331 (再) 1980. 1. 31 新装版、1999. 3. 31 新版

昭和46年 (1971年)

- R19710331 大久保利謙：維新史研究と尾佐竹猛一立憲思想からの解釈
王政復古史観くつがえす 「朝日新聞」夕刊 p7
- R19710410 田中彰：おさたけたけき 『グランド現代百科事典』 4 学研
p75
- R19710904 中村完：尾佐竹猛 久松潜一他編『現代日本文学大事典』 増
訂縮刷版 明治書院 p207

昭和47年 (1972年)

- R19721000 紀田順一郎：解説 尾佐竹猛著『犯姦集録』 三崎書房 p
510-515

昭和48年 (1973年)

- R19730201 無署名：尾佐竹猛 『小百科事典』 平凡社 p184
- R19730300 無署名：志賀瑣羅誌 尾佐竹猛著 (自筆謄写本) 一冊 桜

井甚一編著『志賀町の文化財』1 志賀町教育委員会、志賀町文化財調査委員会 p24

R19730501 無署名：おさたけ・たけき 『日本国語大辞典』3 小学館 p553 →R20060101

昭和50年（1975年）

R19750801 小倉正一郎：おさだけたけし 『石川県大百科事典』北国出版社 p117

昭和51年（1976年）

R19760320 無署名：おさたけ たけき 『コンサイス人名辞典—日本編』三省堂 p258

昭和52年（1977年）

R19770331 無署名：高浜小学校卒業生名簿 明治27年3月卒業 『石川県志賀町立高浜小学校百年史』高浜小学校百年史編集委員会 p71

R19771118a 西田長寿：尾佐竹猛 日本近代文学館、小田切進編『日本近代文学大事典』1 講談社 p331（注）名前の読みは「たけし」

R19771118b 田熊渭津子：明治文化研究会『日本近代文学大事典』4 p 516-517（注）尾佐竹の肖像写真あり

昭和53年（1978年）

R19781005 無署名：おさたけたけし 新世紀辞典編集部編『学研新世紀百科辞典』増補改訂版 学習研究社 p247 ←R19680201

昭和54年（1979年）

R19790331a 無署名：志賀瑣羅誌—石川県羽咋郡高浜及近傍誌（文化財関係/史誌/地域史）志賀町史編纂委員会編『志賀町史』資料編第4巻 石川県羽咋郡志賀町 p287-288

R19790331b 無署名：尾佐竹猛とその著者（文化関係資料/史誌）『志賀町史』資料編第4巻 p305-307

昭和55年（1980年）

- R19800500a 朝倉治彦：明治初期の職員録（明治への視点96）「明治文学全集月報」96（第37巻附録）筑摩書房 p7-8（注）職員録の起原についての尾佐竹の考察に言及〈再〉2013. 4. 15 筑摩書房編集部編『明治への視点—『明治文化全集』月報より』（筑摩選書X003）筑摩書房
- R19800500b 田熊渭津子：『明治文化研究会事歴』以後—吉野作造・尾佐竹猛著作目録・木村毅と翻訳文学年表「書誌索引展望」4(2) p16-19
- R19800901 三谷太一郎：『近代日本の司法権と政党』塙書房 B6判 335, 12p（注）「陪審制の政治史的文脈」「日本における陪審制の受容」で尾佐竹の所説に言及
- R19801103 無署名：志賀瑣羅誌（近・現代/教育と文化/文化芸術）志賀町史編纂委員会編『志賀町史』5 沿革編 石川県羽咋郡志賀町 p778-780

昭和56年（1981年）

- R19810201 松本清張：不運な名前—藤田組贋札事件「オール読物」36(2) 225 p28-83 小説。全編に尾佐竹「熊坂長庵の建白」、同『明治秘史・疑獄難獄』を引用し、厳しく批判。（再）1982. 3. 30 松本清張『疑惑』文藝春秋 に収録 ほか
- R19811130 無署名：尾佐竹猛 戦前期官僚制研究会編、秦郁彦著『戦前期日本官僚制の制度・組織・人事』東京大学出版会 p52
- R19811210 無署名：おさたけ・たけき『国語大辞典』小学館 p356

昭和57年（1982年）

- R19821220 無署名：おさたけ・たけき 時枝誠記・吉田精一編『角川国語大辞典』角川書店 p288

昭和58年（1983年）

- R19830117 無署名：尾佐竹猛氏（戊辰物語談話者の略歴） 東京日日新聞社社会部編『戊辰物語』（岩波文庫 青431-1） 岩波書店 p271 （注）元版は1928. 5. 28萬里閣書房、但し、談話者の略歴はない
- R19830310a 無署名：尾佐竹猛 『日本史事典』 平凡社 p168
- R19830310b 無署名：尾佐竹猛 『人物レファレンス事典』Ⅲ 現代編上 日外アソシエーツ p470
- R19830709 田熊渭津子編：『尾佐竹猛』（人物書誌大系4） 日外アソシエーツ A5判、104p （内容）年譜、著作目録（879点、明治27年-昭和55年1月）、参考文献目録60点、大正14年12月-昭和56年11月）
- R19830729 無署名：尾佐竹猛 『昭和物故人名録』昭和元年～54年 日外アソシエーツ p118

昭和59年（1984年）

- R19840801 五木寛之：風の王国 第二部（15）「小説新潮」38（8）482 p247-261 （注）小説。「柳田国男・尾佐竹猛座談会」（「文藝春秋」5（7）1927. 7. 1）を引用（再）1985. 1. 30 p231-259 新潮社より同名单行本 ほか
- R19841102 宇野俊一：おさだけたけき 『大百科事典』2 平凡社 p995 →R19880315

昭和60年（1985年）

- R19850620 池田政章：尾佐竹猛 『日本大百科全書』4 小学館 p159
- R19851110 美作太郎：『日本憲政史大綱』の成り立ち 美作太郎著『戦前戦中を歩む一編集者として』 日本評論社 p494-499 （注）尾佐竹と鈴木安蔵の関わり、及び、同書における鈴木 の「代作」について

昭和61年（1986年）

- R19860410 無署名：尾佐竹猛：毎日新聞社編『最新昭和史事典』 毎日

新聞社 p112

- R19860415 井黒弥太郎：『追跡黒田清隆夫人の死』 北海道新聞社 B6
判 319p (注) 第11章「虚構づくり」、第12章「あざむき」
で、尾佐竹の黒田の妻殺しについての見解を批判。第11章に
「尾佐竹の型」(p256-265)
- R19861220 無署名：おさたけ・たけき 尚学図書編『言泉—国語大辞典』
小学館 p309

昭和62年 (1987年)

- R19871110a 渡辺治：ファシズムの時代と鈴木憲法学の形成 星野安三郎
ほか編『日本憲法科学の曙光—鈴木安蔵博士追悼論集』 勁
草書房 p57-104 (注) 尾佐竹からの影響等に言及
- R19871110b 永井憲一・金子勝：鈴木安蔵先生の略歴と著作目録『日本
憲法科学の曙光—鈴木安蔵博士追悼論集』 p308-331 (注)
- R19640303参照

昭和63年 (1988年)

- R19880315 宇野俊一：おさだけたけき『世界大百科事典』4 平凡社
p221 ←R19841102

昭和64年 (1989年)

- R19891210a 木村毅：解題 尾佐竹猛著『幕末遣外使節物語 夷狄の国へ』
(講談社学術文庫 907) 講談社 p279-289
- R19891210b 金井圓：学術文庫版『幕末遣外使節物語』の刊行に寄せて
『幕末遣外使節物語 夷狄の国へ』 p290-292

平成2年 (1990年)

- R19900215 上杉聰著『明治維新と賤民廃止令』 解放出版社 A5判
410p (注) 尾佐竹「特殊部落の称号廃止」に言及
- R19900220 無署名：尾佐竹猛『マイペディア [新装・改訂] 小百科』
平凡社 p185
- R19901210 宇野俊一：尾佐竹猛『「現代日本」朝日人物事典』 朝日新

聞社 p397

平成3年(1991年)

- R19910112 中村雄二郎：尾佐竹猛と明治文化全集（明大百年史から見た日本近現代）「明治大学学園だより」196 p6
- R19910305 無署名：おさたけ たけき 『新潮日本人名辞典』 新潮社 p402
- R19910416a 三谷太一郎：校注 三谷太一郎校訂『大津事—ロシア皇太子大津遭難』（岩波文庫 青182-1）岩波書店 p265-314
- R19910416b 三谷太一郎：解説 三谷太一郎：校注 三谷太一郎校訂『大津事件—ロシア皇太子大津遭難』 p315-333 →R20010920『政治制度としての陪審制』
- R19910429 無署名：「大津事件」尾佐竹猛著 「読売新聞」 p10 （注）書評

平成4年(1992年)

- R19920000 宇野俊一：おさたけたけき 『CD-ROM 版世界大百科事典』 平凡社 （注）1988.31.5 『世界大百科事典』4 平凡社 に基づく
- R19920201 木村礎：尾佐竹猛—明治法律学校出身の歴史家の雄 大審院判事で座談の名手（明大人の系譜 9）「明治大学学園だより」207 p4 （再）1997.11.25 『木村礎著作集』11 少女たちの戦争・年譜 名著出版 p265-266
- R19920925 石川恵美：おさたけたけき 安岡昭男編 『近現代史用語事典』 新人物往来社 p42 →R19950815
- R19921118 宇野俊一：尾佐竹猛 『日本史大事典』1 平凡社 p1196

平成5年(1993年)

- R19930805 大多誠：尾佐竹猛 北國新聞社出版局編 『石川県大百科事典』 北國新聞社 p190
- R19930920 無署名：尾佐竹猛〔黒川良安の事蹟に就て〕『石川近代文学

全集』14近代小説・評論 石川近代文学館発行、能登印刷出版部発売 p281-288

平成6年(1994年)

- R19941000 重松一義：[史料復刻解題・補注] 尾佐竹猛術『牢獄秘録』
「中央学院大学法学論叢」8(1) p47-126

平成7年(1995年)

- R19950220 竹中佳彦：『日本政治史の中の知識人—自由主義と社会主義の工作』上・下 木鐸社 A5判 2冊 (注) 上「日中戦争と鈴木安蔵」「鈴木安蔵の『転向』」、下「鈴木安蔵主要著作」などの項で尾佐竹との関係に言及
- R19950303a 室矢幹夫：開祖之碑と尾佐竹猛(高浜・若狭と能登 8) 室矢幹夫著『志賀の里語り』志賀町立図書館 p129
- R19950303b 室矢幹夫：開祖之碑と高瀬清太郎(高浜・若狭と能登 9)『志賀の里語り』p130 (注) 大正9年に東京の尾佐竹を訪ねたことについて
- R19950303c 室矢幹夫：開祖之碑と釈宗演師(高浜・若狭と能登 10)『志賀の里語り』p131 (注) 尾佐竹の撰文、父保の揮毫について
- R19950815 石川恵美：おさたけたけき 武光誠他編『日本史用語大事典』新人物往来社 p200-201 ←R19920925
- R19951201 無署名：おさたけたけき 松村明監『大辞泉』小学館 p365

平成8年(1996年)

- R19960122 大久保利謙：尾佐竹猛先生そして明治文化研究会(日本近代史に立ち向かう) 大久保利謙著『日本近代史学事始め』(岩波新書 新赤版427) 岩波書店 p83-97
- R19960200 無署名：尾佐竹猛 1(ふるさと人物伝 23)「広報西能登しか」287 p12

- R19960226 伎：スリ技術と日本人の器用さ（コーヒーブレーク）「毎日新聞」 p10 （注）尾佐竹『スリのテクノロジー』について
- R19960300 無署名：尾佐竹猛 2（ふるさと人物伝 24）「広報西能登しか」 288 p12
- R19960317 吉岡忍：スリのテクノロジー 金と生き方に独自のモラル？「読売新聞」 p13 （注）書評

平成9年（1997年）

- R19970420 無署名：おさたけたけき 朝尾直弘ほか編『角川日本史辞典』新版 角川書店 p165
- R19970610 内海孝：鹿野政直他編『民間学事典』人名編 三省堂 p99-100
- R19970710 無署名：尾佐竹猛/三谷太一郎校注 大津事件—ロシア皇太子大津遭難『岩波文庫解説総目録』特装版 岩波書店 p54
- R19970801 古関彰一：憲法五〇年—尾佐竹猛を思う「中央公論」112(9) 1356 p27-29
- R19971022 無署名：尾佐竹猛『日本史広辞典』山川出版社 p353-354 →R20000525

平成10年（1998年）

- R19980331 島田正郎：尾佐竹猛・佐伯好郎両先生「法史学研究会会報」3 p1-3
- R19980505 小野武雄：尾佐竹猛 小野武雄編著『江戸の刑罰風俗誌』展望社 p408
- R19981225 礪川全次：解題『明治秘史疑獄難獄』の価値と読み方 尾佐竹猛著『明治秘史疑獄難獄』批評社 巻末 p1-13

平成11年（1999年）

- R19990125a 礪川全次：『法曹珍話閻魔帳』解題 異色にして興味深い明治史資料 尾佐竹猛著『法曹珍話閻魔帳』批評社 巻末 p1-

- R19990125b 無署名：『法曹珍話閻魔帳』内容細目 尾佐竹猛著『法曹珍話閻魔帳』批評社 卷末 p9-11
- R19990200 礪川全次：犯罪民俗学の先駆者・尾佐竹猛—ニッポン民俗学外史 (9) 「歴史民俗学」13 p46-55
- R19990510a 礪川全次：日本の近代を知るための第一級資料(編者の言葉) 尾佐竹猛著『下等百科辞典』批評社 p330-336 (注) 解題
- R19990510b 無署名：初出一覧 尾佐竹猛著『下等百科辞典』 p337-342
- R19990601 無署名：尾佐竹猛 日本歴史学会編『日本史研究者辞典』吉川弘文館 p86
- R19990700a 安岡昭男：尾佐竹猛と福本和夫(研究余録) 「歴史民俗学」14 p168-171
- R19990700b 礪川全次：柳田国男と尾佐竹猛の接点—ニッポン民俗学外史(10) 「歴史民俗学」14 p172-183
- R19990715 住友和子：賭博や掏摸の裏社会を描いた最高裁判事の稀代の名著 尾佐竹猛の奇書を読む(サライ・ブックレビュー 読む) 「サライ=Serai」11(14) 237p p125 (注) 尾佐竹『下等百科辞典』(批評社)と『賭博と掏摸の研究』(新和泉社)の書評
- R19990910a 礪川全次：尾佐竹猛の先行研究の意義 尾佐竹猛著『明治四年賤称廃止布告の研究』批評社 卷末 p8-2 (注) 解題
- R19990910b 無署名：尾佐竹猛(関係人物小辞典) 尾佐竹猛著『明治四年賤称廃止布告の研究』 p156
- R19991026 無署名：尾佐竹猛 石上英一ほか編『岩波日本史辞典』岩波書店 p176
- R19991210 礪川全次：『法窓秘聞』解題 明治政治裁判史の第一級資料 尾佐竹猛著『法窓秘聞』批評社 卷末 p1-7

平成12年（2000年）

- R20000115 山泉進：尾佐竹猛（明大人の遺産）「明治」5 p72-73
- R20000331 原秀成：大正デモクラシーと明治文化研究会—日本国憲法をうんだ言論の力「日本研究」21 p213-252（注）吉野作造から尾佐竹を介して鈴木安蔵に至る憲法制定史研究の系譜など
- R20000525 無署名：おさたけたけき 日本史広辞典編集委員会編『日本史人物辞典』山川出版社 p197 ←R19971022
- R20000710 宇野俊一：尾佐竹猛『日本歴史大事典』1 小学館 p519
- R20000725 無署名：尾佐竹猛『新訂増補人物レファレンス事典』明治・大正・昭和（戦前）編 あ〜し 日外アソシエーツ p472

平成13年（2001年）

- R20010220 無署名：おさたけ・たけき『日本国語大辞典』第2版 小学館 p1112
- R20010221 無署名：尾佐竹猛『平凡社日本史事典』平凡社 p216-217
- R20010530 松岡正剛：尾佐竹猛 下等百科辞典（松岡正剛の千夜千冊 代走篇 0303夜）<http://1000ya.isis.ne.jp/0303.html>（2016.1.10閲覧）（注）校訂・礪川全次 批評社 1999 について →R20061030
- R20010720 大久保利謙：おさたけたけき 白井勝美他編『日本近現代人名辞典』吉川弘文館 p239 ←〈59〉
- R20010914 [石川県立図書館、明治大学図書館]：『明治大学全国校友石川大会記念加賀藩ゆかりの世界地図帳（アトラス・ヌーボー）展・石川県出身の法律家尾佐竹猛著作展』石川県立図書館、明治大学図書館 A4判 8p（注）展覧会出品目録（再）2002.3.25『建学の理念の検証と顕彰・再創造—創立

- 120周年記念事業記録集』 明治大学広報部 p112-119
- R20010920 三谷太一郎：『政治制度としての陪審制』 東京大学出版会 A6判 308,10p (注) 随所で尾佐竹の所説に言及。「尾佐竹猛著『大津事件—ロシア皇太子遭難—』復刊によせ」p283-296 ←R19910416b
- R20011101 渡辺隆喜：日本海地域の風土と人間—創立者の思想とかかわって 「大学史紀要」 6 120年の学譜 p136-154 (注)「尾佐竹猛の思想と学問」など
- R20011206 無署名：おさたけ・たけき 『講談社日本人名大辞典』 講談社 p433
- 平成14年 (2002年)
- R20020000 飯澤文夫：加賀藩ゆかりの世界地図帳〈アトラス・ヌーボー〉展・石川県出身の法律家尾佐竹猛著作展始末 「文献探索」 2001 p39-46
- R20020111 松尾羊一：出色の出来栄え「壬生義士伝」(長屋のご隠居・てれび指南帳)「毎日新聞」夕刊 p5 (注) 子母澤寛が尾佐竹に師事したこと
- R20020424 無署名：尾佐竹猛 『没年日本史人物事典』 平凡社 p362
- R20020520 無署名：尾佐竹猛 秦郁彦編『日本近現代人物履歴事典』 東京大学出版会 p132
- R20020615 吉田悦志：森鷗外と尾佐竹猛—鷗外作「津下四郎左衛門」をめぐる (大学史の散歩道 45) 「明治大学学園だより」 311 p8
- 平成15年 (2003年)
- R20030710 礪川全次：伊豆諸島の流囚 尾佐竹猛 [解説] 礪川全次編『犯罪と猟奇の民俗学』(歴史民俗学資料叢書 第2期 2) 批評社 p34
- R20031200 日外アソシエーツ：尾佐竹猛 日外アソシエーツ編『石川人

物・人材情報リスト2004』 日外アソシエーツ p95

- R20031225 渡辺隆喜：尾佐竹史学の成立とその特色 「大学史紀要」 8
駿台学の樹立 →R20071001a「尾佐竹史学の成立」

平成16年（2004年）

- R20040425 礪川全次：喜剣思想 尾佐竹猛〔解説〕 礪川全次編『無法
と悪党の民俗学』（歴史民俗学資料叢書 第2期 4）批評
社 p105
- R20040724 出久根達郎：かわうその祭り 94 「朝日新聞」夕刊 p3
（注）小説、尾佐竹『明治秘史疑獄難獄』所収「露国皇太子
大津遭難湖南事件」を紹介
- R20040726 無署名：尾佐竹猛 日外アソシエーツ編『20世紀日本人名事
典』あ～せ 日外アソシエーツ p603

平成17年（2005年）

- R20050325a 渡辺隆喜：尾佐竹猛研究について 「大学史紀要」 9 尾佐竹
猛研究Ⅰ p4-5
- R20050325b 渡辺隆喜：民権結社の成立と地方民会論 「大学史紀要」
9 p8-54 （注）尾佐竹憲政史の特色など →R20071001
- R20050325c 山泉進：裁判と事件と歴史―「裁判事件史」開拓者としての
尾佐竹猛 「大学史紀要」 9 p55-107→R20071001a「『裁判
事件史』の開拓者」
- R20050325d 長沼秀明：明治文化研究会をつらぬく駿台学の系譜―尾佐竹
猛の明治文化研究の歴史的意義 「大学史紀要」 9 p108-
147→R20071001a
- R20050325e 飯澤文夫：書誌調査からみた尾佐竹猛―明治大学での事績を
中心に（調査ノート） 「大学史紀要」 9 p187-229 →R
20071001a
- R20050325f 渡辺隆喜：尾佐竹猛と草創期文科専門部―宗京獎三氏（明治
大学名誉教授）に聞く 「大学史紀要」 9 p148-179

- R20050426 明治大学史資料センター事務室編：『尾佐竹猛展（第18回明治大学小史展）』 明治大学史資料センター事務室 A4判 4p （注）会期：2005年4月26日-9月29日、会場：駿河台キャンパス・大学会館1階ロビー
- R20050922 村上一博：尾佐竹猛著作集「法制史編」（全六巻）について 明治大学史資料センター監修『尾佐竹猛著作集』1（法制史1） ゆまに書房 p411-432

平成18年（2006年）

- R20060000a ゆまに書房：[明治大学史資料センター監修『尾佐竹猛著作集』内容見本] ゆまに書房 A4判 [6] p
- R20060000b 高木不二：温故知新の新世界 [明治大学史資料センター監修『尾佐竹猛著作集』内容見本] p [3]
- R20060000c 松尾正人：日本近代史研究の発展に寄与する著作集 [明治大学史資料センター監修『尾佐竹猛著作集』内容見本] p [4]
- R20060000d 渡辺隆喜：刊行に寄せて : 日本近代史研究の発展に寄与する著作集 [明治大学史資料センター監修『尾佐竹猛著作集』内容見本] p [5]
- R20060101 無署名：おさたけ・たけき 小学館国語辞典編集部編『精選版日本国語大辞典』1 小学館 p780 ←R19730501
- R20060123 山泉進：尾佐竹猛と日本憲政史研究 『尾佐竹猛著作集』7（憲政史1） p389-424
- R20060125 礪川全次：といちはいち ほか 尾佐竹猛 [解説] 礪川全次編『ゲイの民俗学』（歴史民俗学資料叢書 第3期 1） 批評社 p37
- R20060228 堅田剛：尾佐竹猛の法の雑学—明治文化研究の一素描として（論説）「独協法学」68 p1-28 →R20081020
- R20060320a 渡辺隆喜：尾佐竹研究Ⅱについて 「大学史紀要」10 尾佐

竹猛研究Ⅱ p4-5

- R20060320b 村上一博：司法官・尾佐竹猛の時事法律論—民衆の法律化・人権蹂躪・貞操蹂躪 「大学史紀要」 10 p8-38 →
- R20060320c 秋谷紀男：尾佐竹猛の賭博史研究—司法官・歴史家としての尾佐竹猛 「大学史紀要」 10 p39-63 →R20071001a
- R20060320d 吉田悦志：尾佐竹猛における「歴史と文学」の位相—融通無碍の一貫性 「大学史紀要」 10 p64-85 →R20071001a
- R20060320e 鈴木秀幸：近代史の中の郷土—加能地方出身の尾佐竹猛について 「大学史紀要」 10 p88-138 →R20071001a
- R20060320f 別府昭郎：大学人としての尾佐竹猛 「大学史紀要」 10 p139-162
- R20060320g 山岸智子：アンビヴァレンスの人—家族のなかの尾佐竹猛 「大学史紀要」 10 p163-181 →R20071001a
- R20060524 渡辺隆喜：尾佐竹猛著作集「維新史編」 解題 『尾佐竹猛著作集』 13（維新史 1） p485-508
- R20060925a 長沼秀明：尾佐竹猛著作集「文化史編」 解題 『尾佐竹猛著作集』 19（文化・地方史 1） p639-653
- R20060925b 飯澤文夫：「尾佐竹猛著作集」第24巻「文化・地方史編」 6 解題 『尾佐竹猛著作集』 24（文化・地方史 6） p559-575 （再）2015. [8] 『飯澤文夫書誌選集』（文献探索人叢書 26） 金沢文圃閣 p78-84
- R20061030 松岡正剛：ジャーゴンを愛した法学無用学 尾佐竹猛 下等百科辞典 『松岡正剛 千夜千冊』 7 男と女の資本主義 求龍堂 p875-878 ←R20010530

平成19年（2007年）

- R20070101 富岡多恵子：湖の南 「新潮」 104(1) p8-87 （注）尾佐竹『大津事件』、「湖南事件の回顧」を引用し、最初にこの事件を包括的に叙述した人物と記述 （再）2007. 3. 30 新潮社よ

- り同名单行本
- R20070415 長沼秀明：尾佐竹猛の洋学史研究（研究発表要旨）「洋学史通信」23 p9
- R20070710 礪川全次：る一でさつく ほか 尾佐竹猛〔解説〕 礪川全次編『性愛の民俗学』（歴史民俗学資料叢書 第3期 3）批評社 p47
- R20070927 米川明彦：ことばのこばこ チャリンコとチンピラ（もの知り百科）「読売新聞」大阪夕刊 p13 （注）尾佐竹著『下等百科辞典』から「チンピラ」を解説
- R20071001a 明治大学史資料センター編：『尾佐竹猛研究』 日本経済評論社 A5判 iii, 369p、図版1枚
（内容）
渡辺隆喜：はしがき 前付 p1-2
渡辺隆喜：序章 尾佐竹史学の成立 p1-19 ←R20031225
「尾佐竹史学の成立とその特色」
村上一博：第1章 司法官としての履歴と時事法律論 p21-52 ←R20060320b「司法官・尾佐竹猛の時事法律論」
山泉進：第2章 「裁判事件史」の開拓者—裁判と事件と歴史 p53-107 ←R20050325c「裁判と事件と歴史」
秋谷紀男：第3章 尾佐竹猛の賭博史研究—司法官・歴史家としての尾佐竹猛 p109-134 ←R20060320c
渡辺隆喜：第4章 民権結社の成立と地方民会論 p135-177 ←R20050325b
長沼秀明：第5章 明治文化研究会をつらぬく駿台学の系譜 p179-218 ←R20050325d
吉田悦志：第6章 尾佐竹猛における「歴史と文学」の位相—融通無碍の一貫性 p219-239 ←R20060320d
鈴木秀幸：第7章 近代史の中の郷土 p241-287 ←R

20060320e

山岸智子：第8章 アンビヴァレンスの人—家族のなかの

尾佐竹猛 p289-307 ←R20060320g

飯澤文夫：第9章 書誌調査からみた尾佐竹猛—明治大学での事績を中心に p309-364 (再) 2015. [8] 『飯澤文夫書誌選集』(文献探索人叢書26) 金沢文圃閣 p44-69 ←R20050325e

明治大学史資料センター：あとがき p365-368

無署名：尾佐竹猛略年譜 p369

R20071001b 村上一博：裁判官としての尾佐竹猛研究 「評論」 p12-13

R20071012a 渡辺隆喜：「尾佐竹猛展」開催によせて—「駿台学」の体現者・尾佐竹猛 [明治大学] 中央図書館ギャラリー企画運営WG編『尾佐竹猛展—「駿台学」の体現者 第二十三回明治大学中央図書館企画展示』 明治大学図書館 p1

(注) 会期：2007年10月12日～11月21日、協力：明治大学史資料センター

R20071012b 無署名：尾佐竹猛略年譜 『尾佐竹猛展』 p2-3

R20071012c 無署名：尾佐竹猛著作展示リスト 『尾佐竹猛展』 p4-11

R20071111 御厨貴：「尾佐竹猛研究」明治大学史資料センター編 “異端” 判事的全貌 「読売新聞」 p13

R20071210 飯澤文夫：尾佐竹猛 伊藤隆、季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典』3 吉川弘文館 p88-89 (再) 2015. [8] 『飯澤文夫書誌選集』(文献探索人叢書26) 金沢文圃閣 p85-87

平成20年(2008年)

R20080530 坂野潤治：『日本憲政史』 東京大学出版会 A6判 218, 7p
(注) 「幕末議會論—土佐要因と薩摩要因」 「幕末議會論と大阪會議」で尾佐竹の所説に言及

- R20081001 堀口修：明治大学史資料センター編『尾佐竹猛研究』（書評と紹介）「日本歴史」725 p118-120
- R20081020 堅田剛：『明治文化研究会と明治憲法—宮武外骨・尾佐竹猛・吉野作造』御茶の水書房 A5判 13、287、10p
（内容）尾佐竹猛と法の雑学 p163-190 ←R20060228

平成21年（2009年）

- R20090201 勝田政治：明治大学史資料センター編『尾佐竹猛研究』（新刊紹介）「明治維新史研究」5 p58-60
- R20090330 三橋広延：尾佐竹猛の富谷銑太郎宛葉書 「法史学研究会会報」13 p114-121
- R20090501 中村文則：掏摸 「文芸」48（2） p78-149 （注）デヴィット・W・マラー、尾佐竹『スリのテクノロジー』を参考文献とする （再）2009. 10. 30 河出書房新社より同名単行本
- R20090601 飯澤文夫：尾佐竹猛と鈴木安蔵—書誌調査をめぐって 「評論」173 p6-7
- R20090805 デミトリ・ヴァノヴェルベケ：日本の司法近代化プロセスと尾佐竹猛の明治文化研究 角田猛之・石田慎一郎編著『グローバル世界の法文化—法学・人類学からのアプローチ』福村出版 p181-195 （注）著者はオランダ、ルーヴェン・カトリック大学文学部

平成22年（2010年）

- R20100325 無署名：尾佐竹猛 浦西和彦編著『石川近代文学事典』和泉書院 p38-39
- R20100331 飯澤文夫：尾佐竹猛著『日本憲法制定史要』『日本憲政史大綱』の鈴木安蔵との共著についての検証 「大学史紀要」14 p296-313 （再）2015. [8]『飯澤文夫書誌選集』（文献探索人叢書26）金沢文圃閣 p70-77

平成23年（2011年）

- R20110301 飯澤文夫：尾佐竹猛（追加情報） 伊藤隆、季武嘉也編『近現代日本人物史料情報辞典』4 吉川弘文館 p299-300
（再）2015. [8]『飯澤文夫書誌選集』（文献探索人叢書26）
金沢文圃閣 p85-87
- R20110401 吉田悦志：明治大学史のなかの日本海文化（コラム6） 明治大学史資料センター編『明治大学小史—〈個〉を強くする大学130年』学文社 p138-139 （注）「歴史家・尾佐竹猛から文学者・下母澤寛へ」など
- R20111101 別府昭郎：尾佐竹猛 1880-1946 初代文科専門部長。本学出身の学者トップ、大審院判事 明治大学史資料センター編『明治大学小史—人物編』学文社 p48-49

平成24年（2012年）

- R20120331 三橋広延：尾佐竹猛のアンケート回答二通（叢説）「法史学研究会報」17 p66-71
- R20120730 田村貞雄：吉野作造・尾佐竹猛・鈴木安蔵の憲法研究の系譜—「日本国国民ノ間ニ於ケル民主主義的傾向ノ復活強化」「東海近代史研究」33 p2-42

平成25年（2013年）

- R20130500 吉野作造記念館：明治文化研究の奇人変人たち 吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨—展示目録 吉野作造記念館 A4判 16p
- R20130619 無署名：「奇人変人」の活動展示 吉野作造らの95点 大崎の記念館民間の立場から歴史描く「読売新聞」p31（注）吉野作造記念館企画展「明治文化研究の奇人変人たち—吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨」を紹介
- R20131030 新保祐司：尾佐竹猛の『明治秘史 疑獄難獄』旧約期の明治—「日本近代」の問い直しのために（第6回）第五章「環

平成26年（2014年）

- R20140400 堅田剛：明治文化研究会の三博士—『西哲夢物語』をめぐって（前期企画展「明治文化研究の奇人変人たち」オープニング講演）「吉野作造記念館吉野作造研究」10 p1-14（注）
三博士は吉野作造・尾佐竹猛・宮武外骨

平成27年（2015年）

- R20150330a 飯澤文夫：尾佐竹猛書誌拾遺1 著作目録（1）（大学史ノート）「大学史紀要」20 p141-162
R20150330b 山口亮介：尾佐竹猛の『人物書誌体系』他諸目録の未収録書誌について（文献目録）「法史学研究会会報」18 p161-173

追記

本誌前号で「尾佐竹猛書誌拾遺1 著作目録（1）」として179点を掲載した。時を同じくして、北九州市立大学法学部の山口亮介氏が143点を、「尾佐竹猛の『人物書誌体系』他諸目録の未収録書誌について（文献目録）」（R20150330b）として『法史学研究会会報』に発表され、恵与いただいた。

連載文献の記載方法に若干の違いがあるので、文献数は概数になるが、両者を照合したところ、重複は僅か13点にすぎず、大変に驚かされた。

その結果、尾佐竹の著作数は田熊渭津子編『尾佐竹猛』の879点と合わせ、現時点で1,188点ということになる。

このように尾佐竹の文献は、埋もれているものが、まだ多くあるのではないかと思う。山口氏とは協働して書誌調査を続けていければと願っている。また、多くの方々のご教示をお願いする次第である。

深井人詩氏、美濃順亮氏、古木景子氏、村松玄太氏から文献及び情報提供いただいた。御礼申し上げます。